

たたらの郷 山崎町小茅野(こがいの)集落を訪ねる



奥播磨 白口峠より眺める宍粟市小茅野集落 西方背後に岡山・兵庫県境の山々が連なる 2010.7.20.



小茅野集落は宍粟市の中心 山崎から車で約45分程度、旧千種町と隣接する旧山崎町の北部、南へ流れ下って千種川に注ぐ恋文川の源流域 周囲を山に囲まれた標高約600mの小さな高原集落である。旧山崎町のほとんどが東側の分水嶺をはさんで 南に流れる揖保川水系に属しているのですが、小茅野集落は千種川水系に属しており、昔から旧千種町との結びつきが強かった地域です。

(<http://www.hnpo.comsapo.net/weblog/myblog/583/>より)

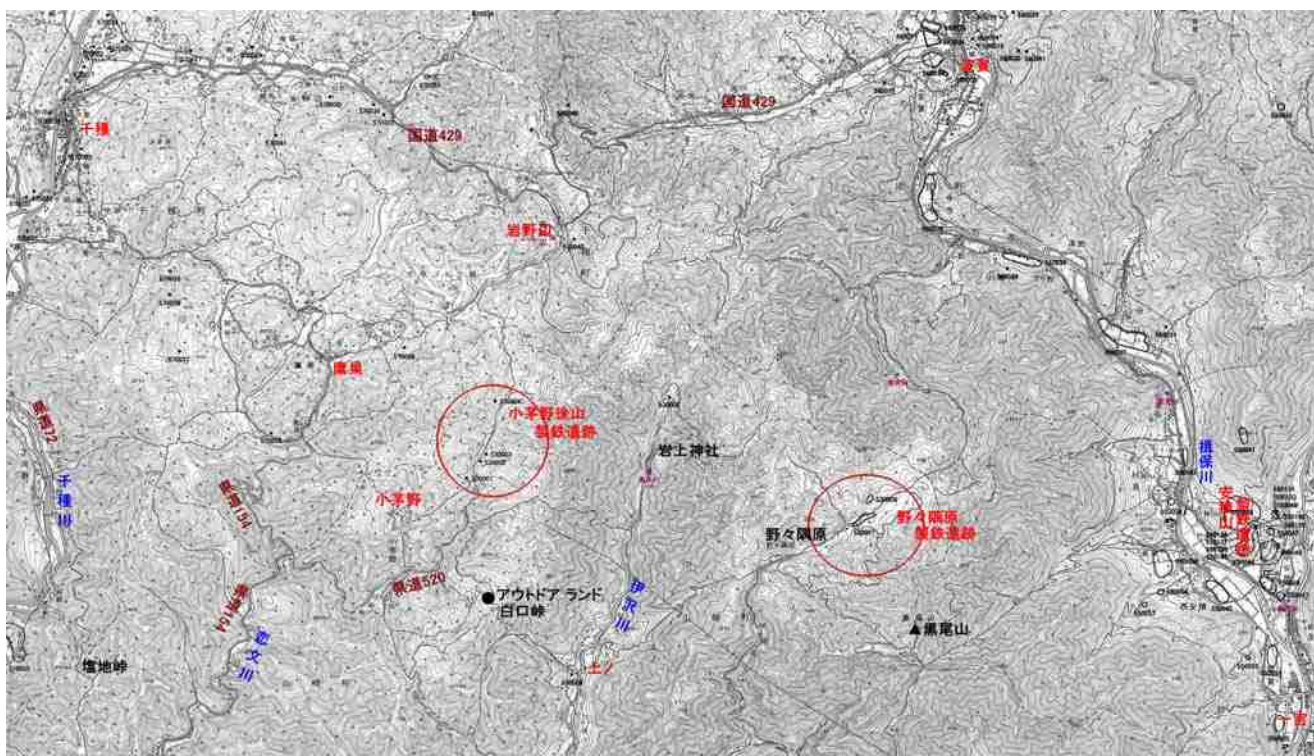
この一帯は中国山地の製鉄地帯を育んだ砂鉄を含む花崗岩帯が東西に伸び、この集落の北側には 製鉄の神 金屋子神降臨伝承の地「岩野辺」・千種があり、西側を流れ下る千種川水系 東側の揖保川水系を中心に古代から「千種鉄」・「宍粟鉄」の大製鉄地帯で数多くのたたら製鉄跡が点在する。

そんな中で、南北に流れ下る千種川・揖保川の本流に挟まれたこの小茅野周辺だけは出かけたことがなかった。

2004年姫路でたたら製鉄の講演を聞いた時に 「今発掘調査中の小茅野後山遺跡が古代 平安時代までさかのぼれるかも・・・」と聞き、その後 「兵庫の遺跡 39」誌にも遺跡の概要が紹介され、ずっと頭にあったのですが、場所も知らず



昨年 分水嶺を挟んで西側の黒尾山の山腹にあるたたら跡「野々隅原」を訪れて、資料を調べている中で、兵庫県立考古博物館 兵庫の遺跡地図を開いて、野々隅原の直ぐ西に小茅野たたら跡が記載されているのを見つけ、機会があれば 一度訪ねようと。(http://www.hyogo-koukohaku.jp/guidance/administrative_area.html)



兵庫県埋蔵文化財情報

39号

平成18年3月30日発行

ひょうごの遺跡

鐵と記立風國磨播



岡山県や広島県の中国山地では、6世紀後半から7世紀前半の製鉄炉が多数確認されており、この頃にはすでに我が国で鉄生産が行なわれていたことがわかっています。

平成12年10月から12月にかけて調査した小茅野後山(ごのうしろやま)遺跡(兵庫県山崎町)で、4か所の地点で製鉄炉跡や製鉄関連の遺構が発見されました。この遺跡のある播磨北部の佐用(さよう)・栗(く)郡、栗(く)郡で最も製鉄遺跡が集中する地域として知られています。

『ひょうごの遺跡』39号は、小茅野後山製鉄炉を中心に兵庫の鉄生産について特集します。



小茅野後山遺跡No.6 地占

小茅野後山遺跡の製鉄炉

炉は、マウンドの中央にカーボンベツト (76×156cm) と呼ばれる炭が長方形

新しうて築かれたことかわかりました。
 炉の操業時期は、土器が出土していない
 ので、明らかにたてられませんでした。
 近隣で調査された製鉄炉の調査などを参
 考にして、平安時代後期までさかのぼ
 るものではないかと考えられます。周辺
 の考古学的調査成果や放射性炭素年代測
 定法、考古地磁気年代測定法などの理化
 学的手法を使って操業時期を検討してい
 きたいと考えています。



参考 1. 和鉄の道

1. 古代鉄の大王国 播磨国 「千種鉄」 「岩鍋」 古代 製鉄神 金屋子神 降臨伝承の地 2001. 1.
<http://buffalonas.com/mutsu/www/dock/iron/jstlbb01.pdf>
2. 播磨国風 土記和鉄の道 【1】
古代製鉄の一大生産地「讃容の里」Walk 西播磨 佐用町 大撫山製鉄遺跡を訪ねて 2003. 11.
<http://buffalonas.com/mutsu/www/dock/iron/4iron01.pdf>
3. 播磨国風 土記和鉄の道 【2】
「御方里」周辺 安積山製鉄遺跡(平安末期の遺跡)探訪 一宮町 2004. 2.
<http://buffalonas.com/mutsu/www/dock/iron/4iron07.pdf>
4. 播磨国風 土記 和鉄の道 【3】
産鉄の地 「御方里」の 里を訪ねて 一宮町 2004. 6.
<http://buffalonas.com/mutsu/www/dock/iron/4iron10.pdf>
5. 和鉄の道 【3】 口絵 2003 2.砂鉄原料(山砂鉄 浜砂鉄海砂鉄) 磁鉄鉱花崗岩類ベルト 2004.1.
<http://buffalonas.com/mutsu/www/dock/iron/ir3kc02.pdf>
6. 奥播磨 かつてのたたら郷に「ジキタリス」の花園を訪ねる 2009.6.21.
奥播磨黒尾山西北山麓 宍粟市山崎町 野々隅原 大国牧場 花の Walk
<http://buffalonas.com/mutsu/www/dock/iron/9iron07.pdf>

参考 2. 小茅野 インターネット検索より

関西ええこと.mot 小茅野(宍粟市) <http://www.hnpo.comsapo.net/weblog/myblog/688>

参考 3. 「兵庫の遺跡39号」に紹介された「小茅野後山製鉄遺跡」 <http://www.hyogo-koukohaku.jp/WSR/btn.pdf.jpg>

7月20日快晴の暑い午後 奥播磨 宍粟市南光町のひまわり畑を見に行った帰りに 車で たたら郷「小茅野・こがいの集落」を訪れました。

残念ながら 小茅野後山たたら跡へは道路が通行止めになっていて、ちょっと車では無理のようだったので、あきらめ、たたら跡には立つことができませんでしたが・・・。

東の伊保川 西の千種川に挟まれた恋文川流域の製鉄地帯には行ったことがなく、是非行って見たかった場所。 深山の狭い谷筋の一番奥 山また山に囲まれた谷合に忽然と現れ、その全貌がよくわからなかった かつてのたたら郷 小茅野。

帰りに小茅野から東へ林道を登って白口峠で分水嶺を越えて東側の上ノ集落に降りてたのですが、小茅野集落のすぐ東の白口峠 展望台で 忽然と現れた「小茅野・こがいの集落」は岡山・兵庫の県境の山々を背後に緑に包まれた深山の山腹にひっそり集落をのぞかせ、実に印象的でした。

古代 金屋子神が降臨した伝承地 岩野辺はこの集落の直ぐ北の山懐 この峠から 小茅野の集落そして 吉備・播磨の国境の山々を眺めながら 古代の千種・宍粟の鉄に思いをめぐらしました。また、出土したたたら跡は平安時代に遡れると聞きましたが、何か新しい展開がでたのでしょうか・・・

たたら郷のイメージが本当に良く似合う郷

奥播磨小茅野集落 満足の Walk でした。



■ 奥播磨 千種川に注ぐ恋文川源流に

たたらの郷「小茅野（こがいの）集落」を訪ねる 2010. 7. 20.

「小茅野」と書いて「こがいの」と読む。奥播磨 宍粟市旧山崎町の西北端佐用町旧千種町に接する山間の中にある集落である。

この小茅野集落の直ぐ東の谷筋に小茅野後山たたら跡の印を兵庫県の遺跡図で見つけた。かつて 教えてもらって気になっていた遺跡である。

地図を見るとこの集落の北側の山間には 古代 金屋子神が降臨した伝承地 岩野辺・千種。西側の分水嶺を挟んで向こう側を千種川が南へ流れ下り、佐用の製鉄遺跡群が点在する。また、東側の分水嶺の向こう黒尾山の山麓には かつてのたたら跡・砂鉄採取跡 野々隅原である。

古代から「千種鉄」・「宍粟鉄」の大製鉄地帯で数多くのたたら跡が点在する奥播磨（西播磨）の大製鉄地帯の中心部。私にとっては 周辺部のはたたら遺跡を訪ねたり、四季折々の花を訪ねたりする場所でもあるが、この恋文川沿いの谷には入ったことがない。



中国山地を分けて揖保川が南へ流れ下る山崎。その山崎から北西へ中国山地の山腹を切り裂いて山崎断層帯が真っ直ぐ作用へ伸びる。其の中を現在は中国縦貫道と県道 53 が平行して延びるが、この道筋は古代から今も 千種・佐用の製鉄地帯と奥播磨（西播磨）の中心地「山崎」を結ぶ幹線道路。

山崎の町を抜けると人家はなくなり、深山の中を切窓峠へと上り詰め、さらに山間の峠道を下ったところが、北側の谷筋から南に流れ下る恋文川との出会いでこの周辺と北側の谷筋に人家が広がる葛根・土万の集落である。

この恋文川の橋の手前に信号と派出所があり、土万三差路の標識が付いている。ここが 恋文川流域を遡って「小茅野」へ至る入口で、県道 53 から分岐した県道 154 が恋文川に沿って遡ってゆく。

地図で見るとこの恋文川流域の最も大きな集落「土万」はこの道を 1km 弱遡ったところで、ここから更に北へ狭い谷筋を延々と曲がりくねりながら 塩沢・大沢の小集落を経て奥へと遡り、一番奥小茅野の入口のところで二つに分かれた右の谷筋を県道 154 は鷹巣から千種へと続く。一方、ここから右手の谷へ県道 524 が伸び、小茅野集落・小茅野後山製鉄遺跡の周辺で通行止めになっている。昨年 訪れた直ぐ近くの野々隅原への道が県道 546 ですごくいい道だったことを考えるとすごくいい道かもしれないなあ・・・と。

この三差路を恋文川流域に入らず、そのまま橋を渡ると宍粟と佐用との分水嶺 八重谷峠を越えて千種川が流れ下る下三河の



土万三差路 県道 53 と小茅野・鷹巣方面への県道 154 との分岐

手前 南光・佐用 奥側 山崎

この三差路を恋文川流域に入らず、そのまま橋を渡ると宍粟と佐用との分水嶺 八重谷峠を越えて千種川が流れ下る下三河の

ト字路に出る。この辻で北に千種川を遡る県道 72 号線が千種へ延び、県道 54 号は南へ千種川沿いの河岸段丘が続く旧南光町西下野・漆野へと下ってゆく。

先程の土万三差路から北へ恋文川を遡っても千種へゆけるが、現在千種へのルートはこの下三河から千種川沿いを遡る県道 72 が本道で、私も何度か通ったことがある。

インターネットで調べても 土万三差路から恋文川を遡るルートについては 地図に記された道しか記載がなく行ってみないとよくわからない。インターネットで「小茅野集落」のホームページをみつけ、これで一安心。行けると。また、かつて千種と山崎を結ぶ本道は土万から恋文川を遡り、塩山集落から真っ直ぐ北へ地塩峠を越えて、千種川沿いの下河野へ下り、そこから千種川沿いを千種にいたったという。

なお、小茅野集落の東側の分水嶺 白口峠周辺に「山崎アウトドアランド」が開設され、東側の谷筋「山崎町上ノ」の集落から林道が延びていて、この道の方が広く安全に通行でき、生活道路はむしろこちらで・・・と思いました。

「小茅野集落を訪れた帰りにこちらから帰って そんな感じを受けました。」



南光町林崎 千種川河岸段丘を埋めるひまわり畑とひまわり畑の横を流れ下る南光町漆野の千種川 2010. 7. 20.

7 月 20 日（火）梅雨が明け、快晴の平日の午後

佐用町旧南光町林崎の満開のひまわりを見学した後、千種川沿いの県道 54 を東へ 殿崎・漆野・西下野の集落を抜け、ひまわりと千種川の流れに目をやりながら、下三河から峠を越えて 20 分ほどで土万三差路へ。

ここから北へ、千種川水系の恋文川沿いの谷をさかのぼる県道 154 をゆく。

この谷筋にも川に沿ってくねくね曲がりながら奥へ続く道筋に点々と小集落・たたら跡がつづくたたら里。

インターネットや地図で予備知識は入れたが、どこまで入って行けるのか・・・行ってみないと解からない。

土万三差路を左へ 谷筋に入ると直ぐ横にこの谷筋を下ってくる恋文川 細いがしっかりした県道 154 を遡る



土万三差路を左へ 谷筋に入ると恋文川が直ぐ横に 細いがしっかりした県道 154 を遡る 2010. 7. 20.



谷筋に入って直ぐ 路際の高台にある土万小学校の横を抜けてゆく。

土万はこの谷筋で一番大きな集落で道は集落を抜け、更に億へと続く。

土万集落周辺 土万集落はこの谷で一番大きな集落で 小学校が見える

土万集落を抜けると道は川に沿って、狭い谷合いをくねくね回り込みながら山際を奥へ進む。

山に挟まれた中央を恋文川が流れ、其の両側に狭い耕地が続く。何とか車が行き違える程度の道で、道に沿う山際にボツボツと家があるが、人影や行き違う車はまったく無し。

程なく、塩山・大沢の集落域にはいり、正面に自動販売機が並べた商店が建つY分岐で、左の谷筋にも細い道に沿って家並みが見える。

このY分岐左手の道端 消えてしまって何も見えない案内板の横に

「史跡 千種鉄の道」の石碑と古い道標が建っていて、ここから左手の谷筋をつめてゆくと地塩峠を越えて千種へ至るかつての街道筋と知れる。



地塩峠への分岐に建つ石碑



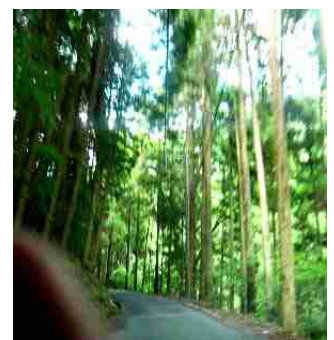
恋文川沿い小茅野への谷筋周辺の衛星写真



塩山・大沢集落から左手 かつての「千種鉄の道」地塩峠への分岐 2010. 7. 20.
左角に「史跡 千種鉄の道」の石碑と消えて何も見えない案内板が建っている

小茅野への路は右手奥に更に続くが、ここから先は少し道が狭くなり、大沢集落を抜けると一層谷筋は狭まり、道も車一台がやっと通れるほどになる。谷筋も一層狭まって林の中、視界がまったく利かなくなり、深山に分け入ったと。

おそらく、この先には人家が途絶えるためとおもわれるが、路には時折山腹から落ちた石や枯れ枝が散在している。いよいよ谷の奥 一寸 小茅野まで行き着けるだろうかと不安になる家内に、「行ける 行ける」と。





大沢集落を抜けると人家がなくなり、深山の中の狭い谷筋に続く一本道 谷のドン突き 2010. 7. 20.



谷のドン突きでT字路 左県道 154 鷹巣・千種 右県道 520 小茅野・山崎アウトドアランド 2010. 7. 20.

谷のドン突きでT字路になり、県道 154 は左に折れ、鷹巣集落を経て千種へ抜けてゆく。ここからいよいよ県道 520 小茅野集落へのドン突き道が始まる。 遡ってきた恋文川も左手の県道 154 側の谷筋から、90 度折れ曲がって南へ流れ下る。また、ここで、右手の谷から小茅野川が水しぶきを上げて合流する。

恋文川の源流部 小茅野の集落も近いはずであるが、深い山の中 まったく谷筋以外に視界がきかない。

かつて この周辺は奥播磨の製鉄地帯 幾つもたたら場があり、鉄を南の山崎へ運ぶ街道筋だったのだろうが、今はまったくの深山 人っ子一人通らぬ静まりかえった山中である。





小茅野へ 小さな谷川 小茅野川沿いを登ってゆく県道 520

車1台がやっと通れる狭い谷筋道 県道 520 を「帰りの不安半分・小茅野集落到着の期待半分」で 登ってゆく。

少し登ったところで 急に空が開いて その空の山腹に人家が見える。もう びっくり。 こんな奥深い山の稜線近くに明るい集落があると。



深山の山腹に突然現れた小茅野の集落



小茅野集落域に入った県道 520



公民館横 左へ小茅野本集落への分岐

深い谷筋を抜け、空が開けた山腹に広がる小茅野の集落域に入り、少し進むと突然 道際に小茅野公民館が建ち、左手に小茅野集落へ入る道との分岐に出る。集落は左手の道を登ってずっと奥で、公民館周辺にも人影無し。

頭に入った予備知識ではここから先 県道 520 のドン突きで人家もなく行き止まり道で、この谷筋道を詰め、その行き止まり周辺が小茅野後山たたら跡周辺である。

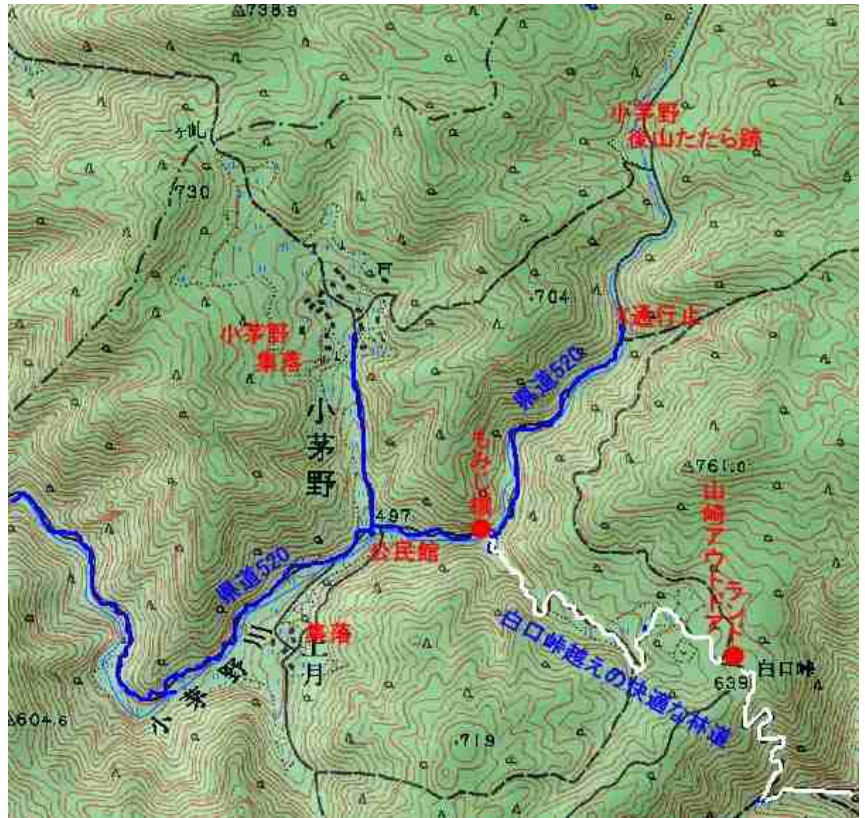
公民館前の位置は谷筋のど真ん中で、谷筋しかみえず、目標となるものがなく、周囲の位置関係がわからず、地図やインターネットで得た小茅野集落の概略図や遺跡地図を取り出して眺める。

小茅野集落へ延びる細い登り道は両側の尾根にはさまれ、奥の集落の様子が見えないが、其の奥の稜線斜から山腹がなだらかなすり鉢状の小さなスロープになっていて、山体に取り囲まれた「底」の部分が集落。

この南からの一本道だけが集落への登り道である。

詳細はよくわからないが、道の南側の山の斜面に広がるところもそうですが、隠れ里というか 街道筋からはすっぽり隠れている。

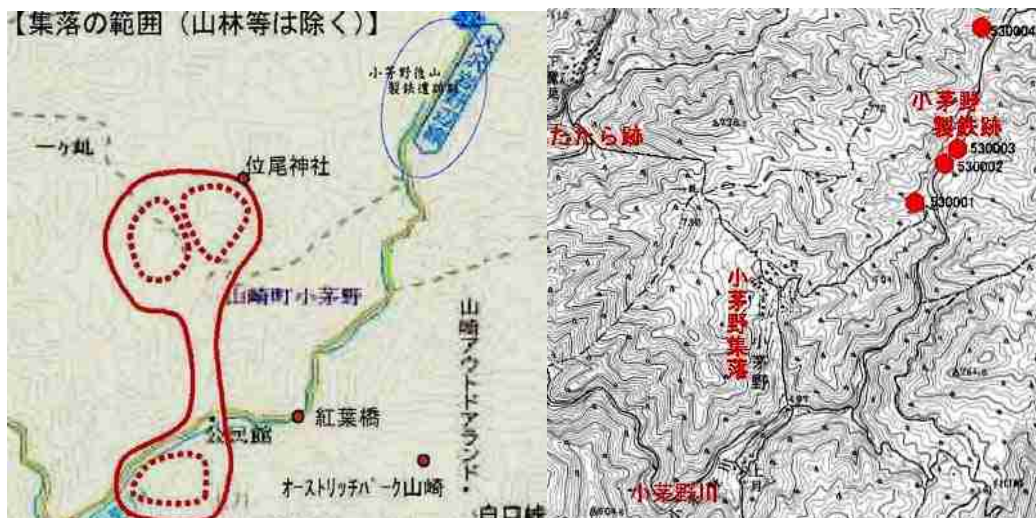
地形の状況からすると砂鉄採取の跡かもしれない。



県道 520 より見えた南側の集落



公民館のところから北へ入った小茅野の本集落（インターネットより）



インターネット・地図で見た小茅野集落の位置 どうも砂鉄採取跡のようにもおもいますが・・・

小茅野後山製鉄遺跡へはこの集落が隠れている小茅野の山に沿う谷川沿いをくると北側へ回りこんだところで、地図では、集落からも点線の道が尾根越しにたたら跡の方へついているが、車ではどうも集落からは行けそうにないので、後で集落の中へ行くことにして、そのまま県道を奥に進むことにする。

道は一層細く 車が一台と折れる程度になるがしっかりした道。

集落へ入る分岐のところに新しい「紅葉橋」の標識 そして 紅葉橋の少し上から右へ分水嶺を登って山崎アウトドアランドへの林道がつながっている。帰りを考えるとこの林道も確かめたい。

狭い谷筋を川に沿って少し登ったところに谷川に滝があり、すぐうえに真っ赤な橋が架かっていて、紅葉橋と知れる。



小茅野集落への入り口から更に奥へ 県道 520

紅葉橋 (写真が撮れなかったので インターネットより) へ

この橋を渡った上のところから右手に山崎アウトドアランド・白口峠から東の山崎町上ノの集落へ山越えする白口林道が分岐していて、こちらがどうも本道のようなだ。

県道 520 は谷筋を真っ直ぐ奥へ続いているが、舗装道路ではあるが、整備があまりされておらず、道はいよいよ狭く、山腹から落ちた石や枯れ枝が散在。路肩も少し不安。車でたどるのは もうちょっと無理かとも思いますが奥へ。

小茅野川沿いの谷筋 路肩を確かめながら小茅野の山腹の南側をまきながら北へそろそろと進む。

これは 山を越えて 直ぐ東側野々隅原へ行った時の県道 546 よりきつい。バイクでないと無理か・・・と。



小茅野から更に北へ伸びる国道 520 号線の最奥部 小茅野川の源流岩尾谷川沿い

紅葉橋の上の林道との別れから狭い谷道を詰めて、10分ほど 岩尾谷川にかかる流尾橋を渡ったところが少し広がっていて、道は左へ折れ曲がって 谷川沿いを奥へつながり、また、ここで、小さな切通しを請えて東へ伸びる林道がとの別れになっている。ここから先の道は細い上に荒れてでこぼこで、通行止めの標識が立っている。視界がまったく開けないので不安感が強い。まだ、谷筋が続いていて先がよくわからない。

もうほんの1kmも行かないところが小茅野後山たたら跡が出土した地点の原に出るようなのですが、まったく人影のない深山の中。

「家内はもう 奥へ行く不安と帰りを心配している」

さいわい、ここでは 少し広がっているの、ユーターンが可能。

バイクならばなんとかなりそうですが、車での先はもう無理。今回は

ここでストップして引返すことにしました。様子がほぼわかったので、今度は一人で歩くつもりで出てこようと。

一旦 公民館横の小茅野集落の入口まで引返して 集落の中へ行ってから、紅葉橋のところから、東へ林道に入って 分水嶺を登って、山崎アウトドアランドへ。

そのまま白口峠を越えて旧山崎町上ノの集落へ降れば下ろうと戻りました。



小茅野集落の入口である公民館の所に戻って、そこから右手へ 両側を尾根に挟まれた中を真っ直ぐ登って小茅野集落へ。徳利の口型になっているこの道を登りきると、ぱっと視界が開け、正面の山腹の斜面に家並みが重なるように建ち並ぶ小茅野の集落。 静まりかえった集落の中へ細い一本道が入ってゆく。



この集落からたたら跡へ抜けれる道やたたら跡の様子を聞ける人を探そうのですが、平日の午後。人影がなく、今回は集落を眺めるだけにして、元の道へ戻りました。



小茅野集落から集落の入口方向 集落への登り道を眺める
写真右端中央が県道 520 赤い屋根が公民館



集落の南東側 白口峠より眺めた小茅野集落全景 2010. 7. 20.



集落の上北側より眺めた小茅野集落（インターネットより採取） 写真右端中央が県道 524 からの登り道

地図に記された地形図にも現れているごとく、標高約 600m 山の稜線から南側 集落にかけて、山体が削られたような緩やかなスロープになっていて、棚田が広がり、集落の直ぐ東北側へ尾根を越えれば小茅野たたら跡である。

この集落周辺 「ひょっとして砂鉄採取場の跡でなかったか・・・」と思えるのですが、よくわかりませんでした。

もう一度 今度はたたら跡にも出かけ、この頭に浮かんだ謎についても考えてみたいと集落から引返しました。

県道 520 を再度紅葉橋まで戻って、東の林道を山崎アウトドアランドへ登ってゆく。

道はよく整備された道でほっとする。少し登ったところで、道の横にいきなりゆっと「ダチョウ」がお出迎え。
インターネットで見た小茅野の集落の村おこしに役かっているダチョウ園はここなんだと。



紅葉橋から林道に入って 東へ 小茅野名物 ダチョウのたまご 山崎アウトドアランドに隣接するダチョウの飼育園
(インターネットより採取)

ダチョウ園から丘へのぼりきったところが、白口峠で山崎アウトドアランドの事務所。この事務所を中心にオートキャンプ場やいろいろの施設が整備されている。

ちょっとしたキャンプ場があるだけと思っていたのですが、以外にも大きな施設で、東側の林道はりっぱな道路で、林道の向こうから この事務所にパトカーが登ってきました。やっぱりこっちが本道。

考えてみれば、この周辺で一番大きい宍粟市の中心山崎へは、ここを東へ降れば 上ノの集落から広い県道がまっすぐ山崎についている。今日登ってきた恋文川ぞいをくねくね曲がりながら逝く必要はないのである。

昔は西の旧千種町とのつながりが強かった小茅野集落の人達の交通アクセスも 林道ができて随分変わっただろう。

事務所では、たたら跡の話を聞くこと出来ませんでした。帰りの道案内を請うとやっぱり 林道を真っ直ぐ降りるのが、一番だと。

この分水嶺の峠 白口峠からよく整備された林道を少し南へ進んだところで、視界がぱっと開け 山の西側 岡山・兵庫県境を見渡せる展望所に出ました。そこからは、どこまでも続く山々の連なりの中に ひっそりうずもれている小茅野の集落が見えていました。小茅野のたたら跡を訪ねて ちょっと消化不良気味でしたが、この景色でいっぺんに吹っ飛びました。



山崎アウトドアランドの事務所



山の名前はよくわかりませんが 左から 日名倉山、後山、三室山、 植松山、氷ノ山、??? など千種の山々が見える
白口峠から眺めた 奥播磨 岡山・兵庫県境の山々 右に山の緑に包まれたたたら里 小茅野集落 2010. 7. 20.



白口峠と峠から眺めた 奥播磨 岡山・兵庫県境の山々 2010. 7. 20.



山の緑に包まれたたたらノ里 小茅野集落 2010. 7. 20.

峠からは 本当にこんな高いところまで、のぼってきていたのか・・・と。

忽然と現れた「小茅野・こがいの集落」は岡山・兵庫の県境の山々を背後に緑に包まれた深山の山腹にひっそり集落をのぞかせ、実に印象的。地図で見たすり鉢状の山腹に広がる集落がよくわかる。やっぱり、砂鉄採取後なのでしょうか・・・

古代 金屋子神が降臨した伝承地 岩野辺はこの集落の直ぐ北の山懐 この峠から 小茅野の集落そして 吉備・播磨の国境の山々を眺めながら 古代の千種・実栗の鉄に思いをめぐらしました。

また、出土したたたら跡は平安時代に遡れると聞きましたが、何か新しい展開がでたのでしょうか・・・

満足感に浸りながら つづら折れの林道を下って 上ノの集落へ。昨年 野々隅原へ行った時の入口の集落である。

土万三差路から恋文川を遡った道がうそのような素晴らしい林道を短時間で下りきりました。

芦を踏み入れたことのなかった奥播磨 恋文川流域のたたらノ郷。 かつての鉄の道がそのまま残っていると思わせる恋文川ぞいの道が最奥のたたらノ郷 小茅野集落へつづく。そして、たたらノ郷のイメージが本当に良く似合う郷 奥播磨小茅野集落。そして 帰りには素晴らしい林道とつながって、そんな古い山郷 小茅野のイメージを一変する新しい小茅野集落の顔にも出会えました。

奥播磨小茅野集落 満足のWalkでした。

【追加】

このwalk から帰って、今回行き着けなかった

小茅野後山たたら跡周辺である県道 520 号の行き止まり周辺（大沢内海線）の

写真をインターネットで見つけたので、ご参考まで



林道大沢内海線 インターネットより採取

【 奥播磨 恋文川源流 たたらの郷 宍粟市山崎町 小茅野 】

